

男子部高等科3年、中等科1年 美術展 報告会

「木から生まれる学び ～植林から椅子作りまで～」

高橋和也

男子部ではここ数年、創立以来行われてきた特色ある学びの意義を再確認し、現代化する作業に取り組んでいる。その一環として、2009年学業報告会では「自治」の報告を、2011年90周年記念教育報告会では「木につながる学び ～植林を中心に～」の報告を行った。

今回の美術展の教育実践報告では、「木から生まれる学び ～植林から椅子作りまで～」とのテーマのもと、長く続けられてきた植林活動と椅子作り歴史を振り返り、植林地で育ててきたひのきの間伐材による「いす作り」の可能性を探ることとした。

この背景には現在進められている新木工所の建築計画がある。新木工所には簡易製材機を導入する予定であるが、これによって植林地から切り出してきた丸太材を生徒自身の手によって板材に加工することができるようになり、校内での植林地の材の有効活用をすすめることができるようになる。これは名栗（飯能市）の植林地と東久留米市のキャンパスという二つの地域を結ぶという意味においても、また60年以上にわたって継続してきた植林・労働教育と木工・技術教育という二つの特色ある教育活動を結ぶという意味においても意義のあることである。「ひのき材による『椅子作り』」はそのよい実践例となるはずである。

報告準備は高等科2年生4名、中等科1年生4名の生徒によって進められ、当日の報告も8人の生徒によって行われた。報告内容を検討するにあたっては、岐阜森林文化アカデミーの松井勅尚先生にご来校いただき講義をしていただくなど、大変お世話になった。

1. 報告準備期間

- ・9月末、高等科2年生メンバー4名決まる。
- ・10/19(金)、10/20(土)、11/5(月)、11/6(火)、松井勅尚先生によるデザインについての講義、計4回。
- ・10/23(火)：明日館、11/2(金)：平林寺の見学を行う。
- ・11/13(火)報告原案完成、リハーサルを行う。
- ・11/14(水)3部合同リハーサル
- ・11/15(木)合同礼拝後の前日報告会で生徒向け発表

2. 報告内容

「木から生まれる学び～植林から椅子作りまで～」

はじめに

男子部のモットー「思想 技術 信仰」

男子部の特色ある学び 「工作と植林」

(1) 植林活動

創立者の思い

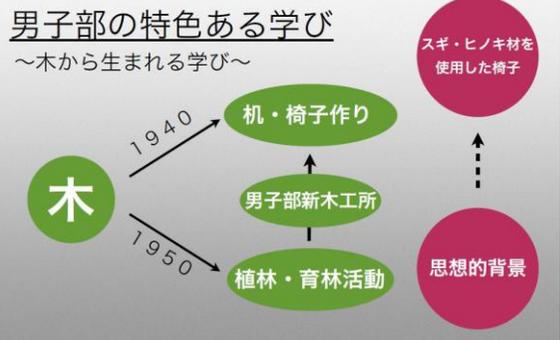


図1 報告資料より

植林活動の歴史：名栗からネパールへ 名栗で育てている木の種類と「適材適所」

(2) 机・いす作り

創立者の思い

男子部の机・いす作りの歴史と現在

(3) 建築と生活

創立者とフランク・ロイド・ライト

ライトと自由学園明日館

(4) 考えたこと

生徒へのアンケート結果から
生活をデザインすること

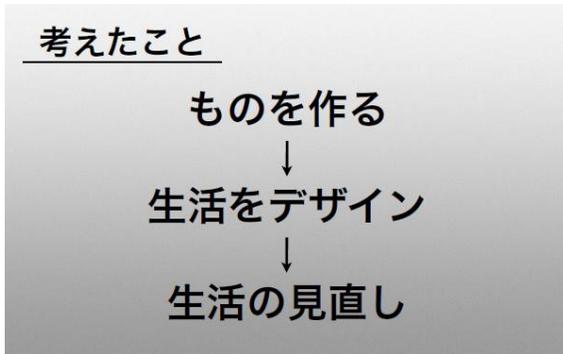


図2 報告資料より

「よい椅子を提案する以前に、まずものを大切に扱う意識を育てること、また壊れたものを自分たちで修理して使う生活習慣を身につけることが必要である。」

「どのような椅子がよいかという『椅子のデザイン』以前に、どのような生活をしたいか、ということを問うべきであり、これは『生活のデザイン』である。」

今回報告に当たった生徒たちのたどり着いた結論はこのようなものだった。

3. 展示

美術展当日は、男子部会場の体操館に「男子部の木の循環」というテーマで展示コーナーを設けた。

生徒製作の椅子や説明パネルと共に、スギ材、ヒノキ材による生活用具（桶、升、徳利等）も展

示した。



図3・4 展示資料より

4. 生徒の感想より

「椅子をデザインするという考えの中だけで今回の課題に向き合っていたが、自分たちの考えるべきことは創立者の考えや、自分の周りの環境のことなど、もっと深いところにあると知ることができた。学園にはフランク・ロイド・ライトの建築物という美しいものに触れられる環境もあって、自分の身の周りには実は大切なことがたくさんあると思った。ライトは『そこに住む人間が自然の中にある木や花と同様に、あるべき姿で存在するための建物を有機的な建物と呼んだ。』この考えを椅子のデザインに取り入れることは難しいと思うが、そのようなことを考えつつ作れたらいいと思う。」

男子部の木の循環について

男子部では木とふれあう機会がたくさんあります。男子部には、植林地での植林活動などによる「育てる」、植林地の材をつかいさまざまなものを「つくる」、つくったものを生活に活かす「使う」、そしてこわれたものを再び使うために「なおす」という木の循環があります。これからこの木の循環について説明していきます。

